

# いのちと健康を守る活動

—CMIP ジョジョのクリニックから—  
 <医療定期支援、2013年9月—12月の報告より

巡回診療	9/18 (ラムホガ村) 歯科 27名 一般診療 142名(内 91名 風邪) 10/10 (グランガ村) 歯科 34名 11/16 (ブティイ村) 歯科 43名 12/14 (ラムキナル村) 歯科 30名 一般診療 136名(内 94名 風邪)
特別支援	10/9 ラムファス女子奨学生(20才)が 顔の腫れと痛み。痛み止めと抗生物質を 処方するも効かず、医師の診察と3回 目の抗生物質投与で腫れが引く。 10/18 ティムロックの女の子(5才)が 高熱、頭痛、全身湿疹でティガンの 病院へ入院。保険料未払いで費用が 払えず、緊急時保険適用で救済。母 親へ医療保険の指導をした。
医療保険 加入手続 指導等	12/4 (ワ村) 政府の最貧層対象教育 医療支援4Pが2014年に終了する ので不安になり、医療保険へ加入す る住民が増えた。

## ヘルス活動を支える自主財源創出事業

目に見える成果が出てきた PIHS と協働のヘルス組合活動の財源創出事業、稼ぎ頭はパリンバンの耕運機貸出です。収益増により、研修、給食などの活動が多くなりました。バロンギスの葉で編んだバニグ製品を資金源とするマラパタン町 MULAN も順調です。一方、輸送費が高くつくヤシ屋根材は収益率が低く、ティナガカンとブラコンのヘルス活動資金は十分ではありません。

11月訪問時、その一つブラコンを訪ねた時です。板状の手作り石鹸を見つけました。抗菌作用がある葉草入と聞いて、屋根材に代わる収入源になるかもしれないと小片を分けてもらいました。きめ細かな泡立ちが期待以上でした。商品化に向けて私たちも何か手伝えたらと思っています。

(WE21 ジャパンみどり助成事業)



ココヤシ林の中の村ブラコンを訪ねて(中央ナプサさん)

## ラワンの水道

「トイレのある家は2軒だけだったが、10世帯でトイレ作りが始まった」「ここ2カ月は子どものひどい下痢は聞いていない」「いつでも水やりできるから、裏庭にインゲンの種をまいた」

前号で共同水飲み水場完成をお伝えしたラワン村の簡易水道建設と保健衛生セミナー事業は11月にほぼ完了しました。私たちが訪ねた時は、村会議員から、また、住民集会参加の水道組合メンバーから、安全な飲み水と生活用水が手に入った喜びの言葉とその効果や活用状況を聞くことができました。

村のヘルスワーカーによる水活用に関する保健衛生研修は7月に、工事責任者 PFP のオーランさんによる簡単修理研修も10月に終了しました。今後は水源付近の植林に努め、接続部分の漏水などへの迅速な対応など、水道組合の維持管理を通じて、水道により実現した生活の質向上維持に期待しています。



完成した貯水槽の上で、今井基金助成と HANDS 支援を記した垂れ幕を掲げるラワンの人びと(10月 PFP 撮影)

水道引渡し式を兼ねた住民集会のあと、半年前にも訪ねたゴム苗木畑に立ち寄りました。さらに1m近く伸びていました。4年ほどして定期的に樹液採取が始まれば、水によって改善された生活の質はさらに向上するものと思います。今後も水道活用とともにゴムノキの成長も見守っていききたいものです。

(ラワン訪問関連記事 P6-7)

## ナセル君手術続報

ナセル君は、1回目の手術後、人工肛門は装着したまま、手術で形成した肛門付近の括約筋を鍛える訓練を自宅で行っていましたが、1月18日大腸を肛門に繋げる手術のためダバオの病院に入院しました。

前号でお伝えしたナセル君の家族の状況は、その後も流動的です。私たちが11月末にブラコン村を訪ねた時は、父親の他、継母と紹介された女性もいて家族に囲まれて元気に幼稚園に通っている感じでした。しかし、難しい2回目の手術を控えているのに、父親はまだ病院に来ていないようです。ともあれ、明日20日に予定された手術成功を祈りつつ、また、皆様のご協力に感謝しつつ報告を書いています。